



原子力安全委員会が、今年の7月に向けて、「新安全基準」の作成を行っています。その基準作りに資するため、国民からパブリックコメントを求めています。その結果も発表していますが、安全基準づくりそのものに批判的な意見に対しては、原子力政策にかかわることは取り上げないとして、全く無視されてしまいました。

現在の出されている案は換骨奪胎、如何にして原発を再稼働させるかという再稼働の条件づくりに終始しています。安倍首相は既にアメリカに赴き、再稼働していくことを約束しました。

このままいけば、日本は危うい国になってしまう。将来世代に対して責任が持てない。私たち大人が原発を止める責務を負っていることを自覚し、原発反対の声を大きくあげていくことが求められています。

## 講演会を開催しました

開催日：2013年3月17日  
開催場所：鳥山区民センター  
第4会議室  
講師：原発問題住民運動全国  
連絡センター事務局長  
柳町秀一先生  
参加者数：33名

脱原発を求める声は、国民意識の深層で共鳴が広がっている。国民的議論でその認識が共有できるか、みんなで原発を止める力を持ち得るか、いままさにそのことが問われている。

### ●原発システムの基本認識

原発システムの中心問題として理解しておくことが必要。原子炉内では、核分裂と核改変(核崩壊)の2つのことが起きている。

この2種類の核反応の制御は、原発の安全上の基本課題であるが、核分裂の暴走による反応度事故、崩壊熱の除去不能による冷却材喪失事故の発生を本質的に排除できない。

原子力の平和利用というが、原子力利用の「表の顔」が原発であり、「裏の顔」が原発である。アメリカの核戦略と不可分の関係にあることを見ぬく必要がある。

### ●原発の日本立地の危険

世界有数の地震国での立地である「地質上の危険」、人口密集地域への近接・集中立地等、日本の原発には、他国には見られない固有の危険がある。



### ●活動期に入った大地震

日本の原発は全て静穏期につくられた。原発に限らず石油コンビナート、高速道路、高架橋、高層ビルなどの近代的構造物がこの時期に建設された。しかし、1995年の兵庫県南部地震以来、日本は地震の活動期に入った。

### ●自公政権の原発推進

安倍政権は、『2030年代原発稼働ゼロ』をゼロベースから見直すとしている。

原子力規制委員会の「新安全基準」は福島原発事故の再発防止の保障はない。

### ●後顧の憂いがないエネルギー政策を

日本には資源が無いといわれ

るが、これまでの10電力体制下で見捨てられてきただけ。日本には豊富な再生可能エネルギーがある。自治体が主役となり、市民参加型の「ローカルエネルギー・ネットワーク」の構築が必要。



3.11以降の国民的対話・議論は、近代日本では明治維新、第二次世界大戦における日本敗戦につぐ対話・議論である。この国民的対話・議論を広げ深めることが求められている。



## 講演会の感想

### 1. 講演会の感想

- ・原発の再稼働など考えられないと再認識しました。
- ・反原発運動・行動するにあたり、核兵器、憲法の事をちょっと離れた位置から同時に考え議論していく余裕を持って行動する・・・、国民的議論と対話と行動等・・・なるほど、なるほど・・・。
- ・大変勉強になりました。

・最初のところで話が長くなり、後半、特にこれから私たちはどう考え、どう行動・運動して行くべきか、というところが短くなってしまっていて残念でした。

### 2. 今後取り組んで欲しいこと

- ・講演会をまた開いて下さい。
- ・現政権の原発に対する政策・指針の本当のねらいはなにかをじっくりと考えていく学習会も必要。
- ・電力は足りない、足りないと言っているが、その根拠はどこにあるか知りたい。電力を使い放題にしていたら足りなくなってしまう。経済との関連も含めて学んで行きたい。

言っているが、その根拠はどこにあるか知りたい。電力を使い放題にしていたら足りなくなってしまう。経済との関連も含めて学んで行きたい。

### 3. 会への要望

- ・育児中の方のかかえる心配事は非常に大きなものだろう。そういう若い世代の方々に呼びかけ、署名をお願いし対話する・・・。

## 3月9日&10日原発ゼロ大行動に参加

手作りによる「さようなら原発！烏山地域の会」の“のぼり”と“横断幕”を持って、3月9日（代々木公園）と10日（日比谷公園）、正午に烏山区民センター広場に集まり、集会とデモ行進に参加しました。

参加してつくづく感じたことは、原発の即時停止を求めることは、決して政治・経済の問題ではなく、命と健康を守るという、人間が生存していくための最低限の要求であるということでした。

福島の子どもたちには、既に甲状腺の異常が現れており、これから結婚し、子どもを産み育てていく若い世代にも深刻な影響が懸念されています。放射能の恐ろしさは、遺伝子情報に影響を及ぼすことが、チェルノブイリの経験からも明らかです。

しかし、政府は原子力規制委員会の新安全基準



の策定（今年の7月）を待って、原発の再稼働を目論んでいます。新安全基準はこれをやれば原発事故は決して起こらないというようなものではなく、原発事故は起こり得るものだという前提に立っています。これでは、安全基準ならぬ、「原発再稼働運転基準」です。

昨年、反原発の世論が大きく盛り上がり、政権が変わった今年になってからも、全国各地で反原発の行動が取り組まれています。

ここで運動を後退させるわけにはいきません。“のぼり”と“横断幕”を見た参加者からは、「自分も烏山に住んでいる。こんな会があったのか」と関心を寄せて下さる方も何人かいました。私たち「さようなら原発！烏山地域の会」の運動をもっともっと盛り上げていきたいと思い、帰途につきました。（S.T）



## ミニ学習会のお知らせ

日時：2013年4月13日(土)9：45～12：00

場所：烏山区民センター第6会議室

内容：DVD観賞と話し合い

「真実はどこに？—WHOとIAEA  
放射能汚染を巡って—」

参加費は無料です。



## 募金残高のお知らせ

3月17日講演会開催時

カンパ： 6,200円

資料代： 9,900円

募金残高：104,255円